

11月16日、日本パスツール財団と共催で、「女性研究者の視点による感染予防への取組」セミナーが開催されました

国土典宏理事長は、開会挨拶の中で「NCGMとパスツール研究所との因縁は深く、今はNCGMの特別名誉総長である森鷗外先生が、ドイツ留学中にパリのパスツール研究所を訪問したという記録が残っています」と紹介しました。また、「新型コロナウイルス感染症の世界的なパンデミックの中において、男女の個人としての尊厳を重んじる姿勢や差別の撤廃、それぞれの能力が発揮できる社会体制が、COVID-19流行対策のための必須事項であり、男女共同参画

づくりのために国際社会と共に歩み、国際機関と相互に協力して取り組む必要があることを強く感じています」と述べました。



本セミナーでは、林 由起子博士（東京医科大学 学長）石野智子博士（東京医科歯科大学教授）ジャンヌ・P・バンサン博士（パスツール研究所）から3演題の講演が行われました。その後、狩野部長をモデレーターに、石野智子博士、J. P. ヴァンサン博士、佐藤尚子博士（理研）、林原絵美子博士（感染研）によるパネルディスカッションを行いました。セミナーには97名が参加しました。



NCGMは熱帯感染症を代表とする世界の感染症対策のために、ラオスやセネガルのパスツール研究所と連携して研究を行ってきた実績がある



モデレーターを務めた狩野繁之部長



パネルディスカッションの様子